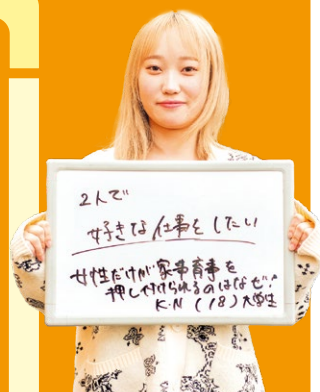
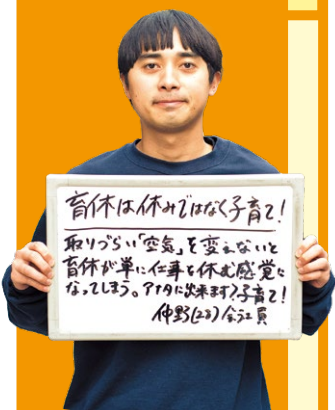
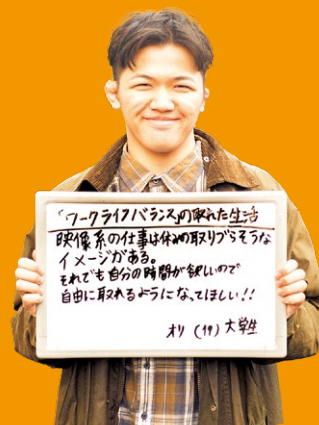
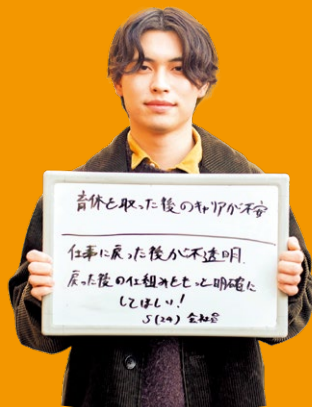
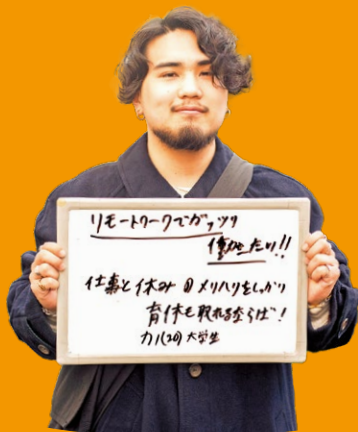
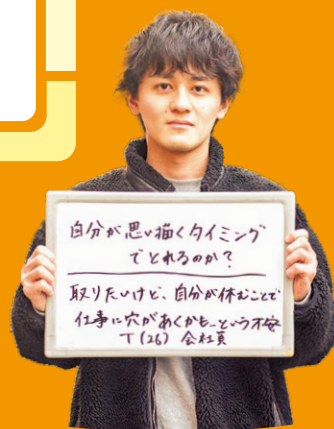
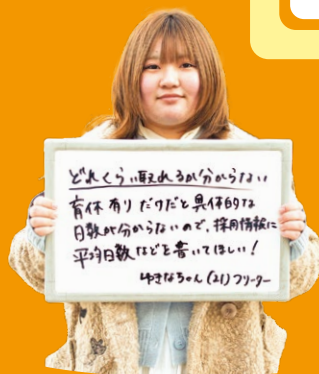


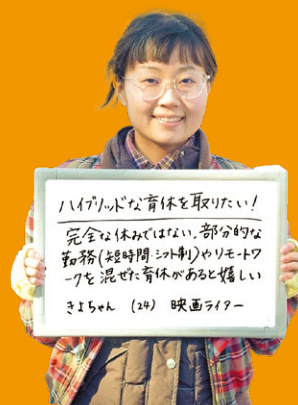
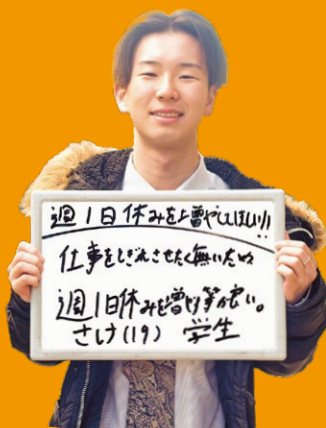
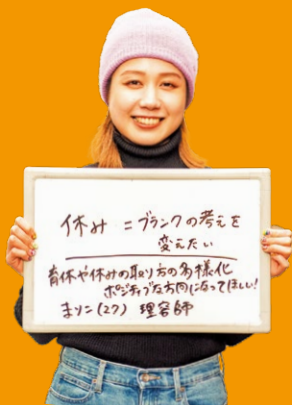


みんなの ホンネ

若者VOICE



若者たちは育休の取り方やワークライフバランス
に対してどんな思いや意見があるんだろう?
データ調査とグループインタビュー、街頭調査で
みんなの「声」を集めてみました。



育てる男が、家族を変える。社会が動く。

育MEN
イクメンプロジェクト

about「イクメンプロジェクト」

男性が育児にもっと積極的に
参加できる社会を目指すための取組
「イクメンプロジェクト」。

現在約30％程度の男性の育休取得率を、
もっと上げるためにできることは何か？

まずは、イマドキの若者の育休取得や
育児に対する意識のリアルを把握すべく、
みんなのホンネを大調査しました！

定量調査概要

調査手法：WEB定量調査／調査期間：2024年6月22日（土）～2024年6月25日（火）／調査対象：全国の18歳～25歳の男女 高校生・大学生などの学生若年層／サンプル数：7,840件（スクリーニング調査）、2,026件（本調査）

定性調査概要

調査手法：対面・オンライン グループインタビュー調査／調査期間：2024年9月19日（木）、20日（金）、10月30日（水）／調査対象：東京都在住の2-4年大学生4名、東京都以外地方の3-4年大学生5名

私たちのホンネ、
聞いて!!



CONTENTS

〔 数字とインタビューでみる若者のホンネ 〕

「育休」って知ってる？	P.03
「育休」どれくらい取りたい？	P.04
就職で「育休」重視する？	P.05
理想のワークライフバランスは？	P.06
結婚へのハードルってある？	P.07
子育てへのハードルってある？	P.08
どこで働きたい？ どこで子育てしたい？	P.09

育休
取りやすく！



男性の
意見も
参考に



〔 街頭インタビューで聞く若者のホンネ 〕

若者VOICE街頭編	P.10
------------	------

コラム 東京グラフィティ編集長 インタビュー

より良い社会へ



みんなどう
思ってるのかな？



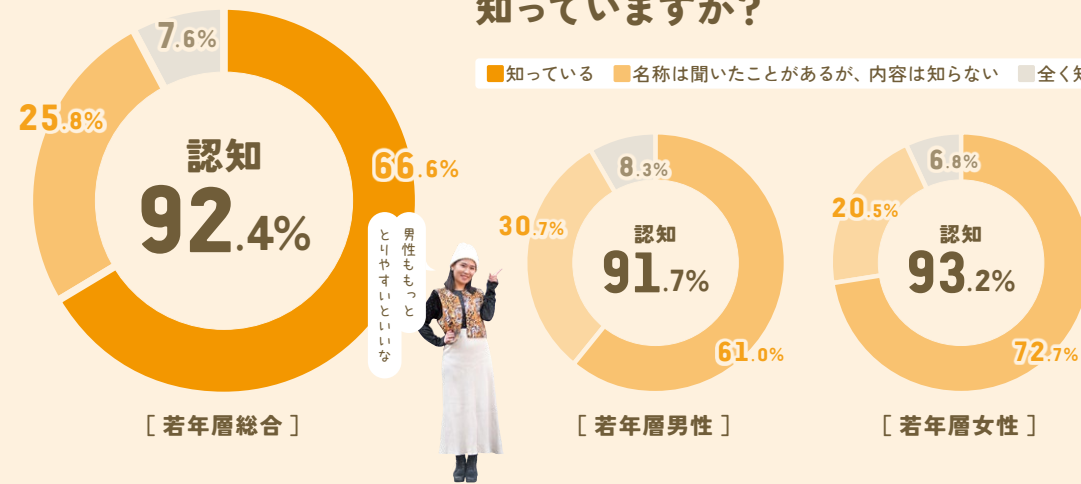
「育休」って知ってる？

若年層の**92.4%**が育休(育児休業制度)があることを認知。

QUESTION

あなたは、育休制度について知っていますか？

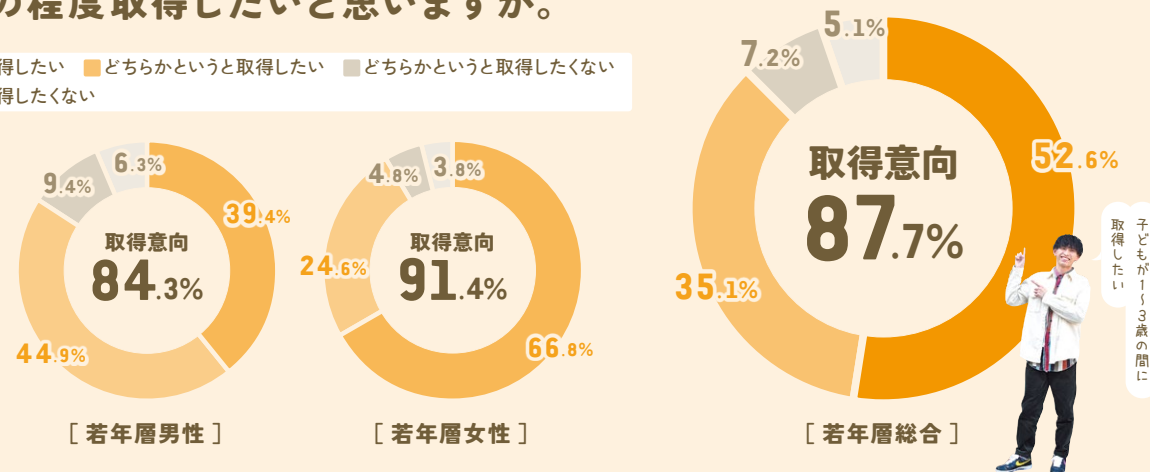
■知っている ■名称は聞いたことがあるが、内容は知らない ■全く知らない



QUESTION

あなたは、ご自身で育休をどの程度取得したいと思いますか。

■取得したい ■どちらかという取得したい ■どちらかという取得したくない ■取得したくない



若年層の**87.7%**が育休を取得したい。

若者VOICE

自分の描く家族像を元に、育休を取りたいという若者たち

ロールモデルは自分の父親。ちゃんと仕事もしているけど、家族との時間のバランスもしっかり取れている。そんな父親になりたいです。(Rさん・関東大学生・男性)

両親が仕事で忙しかったこともあり、私は幼少期に寂しかった思い出があるので...育休は取得したいですね。(Yさん・関東大学生・女性)

子どもがいる人生ってとっても喜ばしいものですね。パートナーには子育ては一緒にするのが当たり前と考えてほしい。(Oさん・関東大学生・女性)

公務員の父が、土日を家族のために使ってくれた思い出があります。父が家族の時間を大切にしてくれているから、自分もそうしたい。(Yさん・北海道大学生・男性)

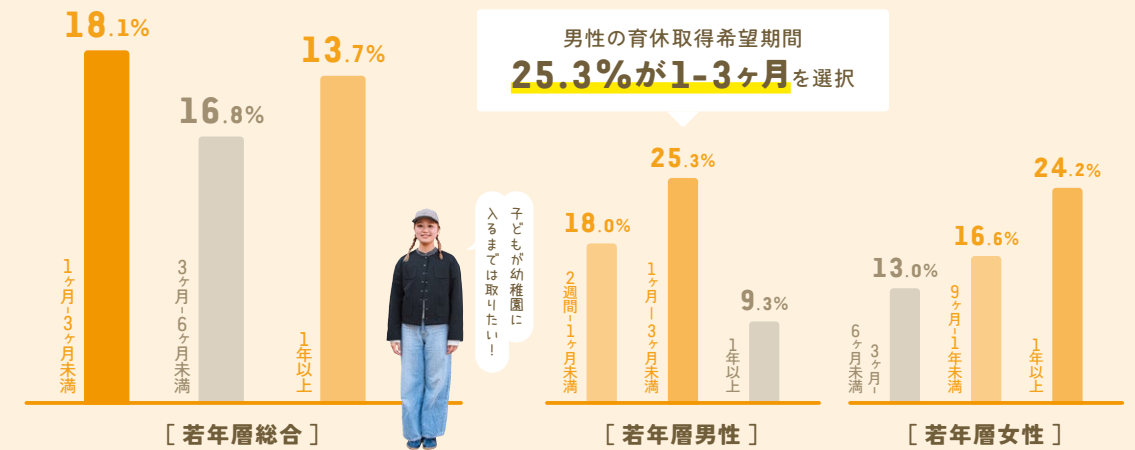
まとめ

87.7%の若者が育休を取得したい！ ロールモデルは自分の両親という意見も多数。

「育休」どれくらい取りたい？

QUESTION

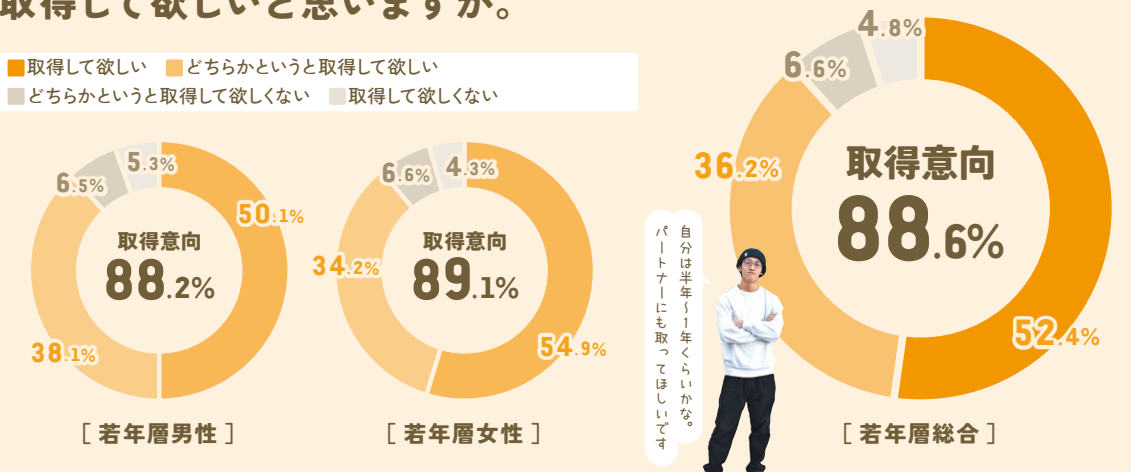
あなたは、ご自身でどれだけの期間育休を取得したいですか。(上位3項目抜粋)



QUESTION

あなたは、配偶者に育休をどの程度取得して欲しいと思いますか。

■取得して欲しい ■どちらかという取得して欲しい ■どちらかという取得して欲しくない ■取得して欲しくない



若者VOICE

育休は家族の唯一無二の時間を過ごす手段

1歳くらいまでは子どもの成長の変化がたくさんあると思うので、旦那さんにも一緒に見てほしいという思いがあります。(Nさん・徳島大学生・女性)

実際に育休をどれくらい取るかは漠然としているけど、仕事に対してアクティブなパートナー像を描いているので、自分も育休を取りたい。(Nさん・関東大学生・男性)

子どもが生まれた瞬間ってかけがえのない時間だと思います。自分はある程度育休を取って一緒に成長を見てみたい。(Rさん・関東大学生・男性)

私は「3歳からずっと保育園に預けられてた」というネガティブな思い出があるから、小学校入学までは子どもと一緒に過ごしたいです。(Yさん・関東大学生・女性)

まとめ

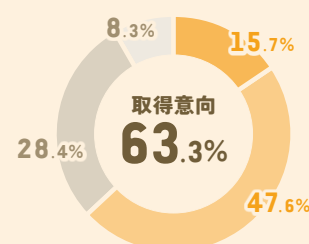
男女の育休取得期間に差はあるが、子どもの成長を共に見たいという思いは一緒。

就職で「育休」重視する？

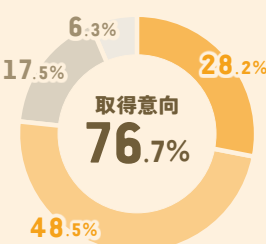
QUESTION

あなたが就職活動をするにあたって、企業の育休の取得状況は、どの程度あなたの企業選定に影響を与えていますか？

■影響がある ■やや影響がある ■あまり影響がない ■影響がない

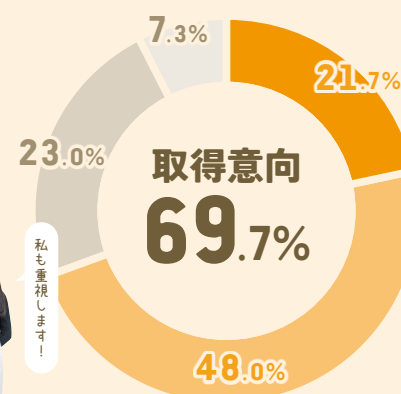


〔若年層男性〕



〔若年層女性〕

若年層の69.7%が就職活動で企業の育休取得情報を重視



〔若年層総合〕

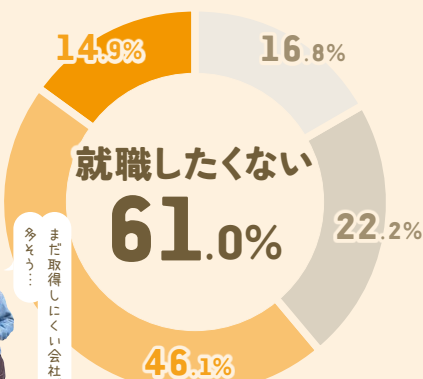
私も重視します！

若年層の61.0%が育休取得実績がない企業に就職したくない。

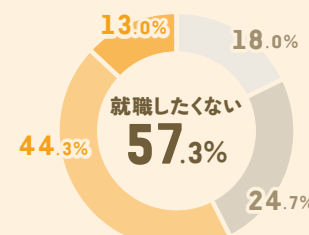
QUESTION

仮に男性の育休取得の実績がない企業があったとして、あなたは、その企業に就職したいと思いますか？

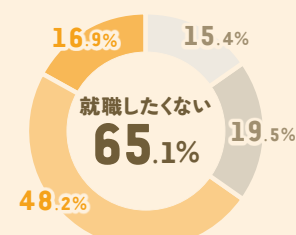
■就職したい ■どちらかという就職したい ■どちらかという就職したくない ■就職したくない



〔若年層総合〕



〔若年層男性〕



〔若年層女性〕

若者VOICE

取得率の数字は就活の参考。取得に至った思いが大切

企業の求人サイトに出てくる人って「キラキラしている人」だと思う。もっと、個人単位のリアルな仕事内容を詳細に知りたい。(Rさん・関東大学生・男性)

取得率よりもなぜ、その人が育休を取ろうと思ったのかなど、その人の仕事観や育休取得にまつわるストーリーを聞きたい。(Iさん・愛知大学生・女性)

「育休取れますよ」という企業アピールが多いと、女性にはゆくゆくは育児と仕事の2択を迫られるようなプレッシャーを感じる。(Nさん・徳島大学生・女性)

休みが取りにくそう...というイメージの多いマスコミ等の企業で、男性も含めた育休取得率の高さが出ていると安心する。(Oさん・関東大学生・女性)

まとめ

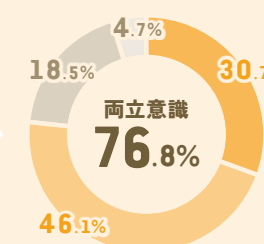
就活中、育休取得率は気になる情報！ 一方、数字よりも現場のリアルが知りたいという意見も。

理想のワークライフバランスは？

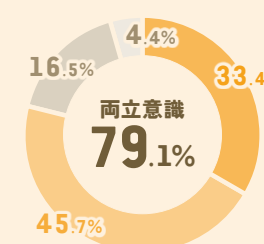
QUESTION

あなたは、新卒で入社する会社を選ぶ際に、将来の仕事(キャリア)とプライベートの両立を意識していますか。

■とても意識している ■やや意識している ■あまり意識していない ■全く意識していない

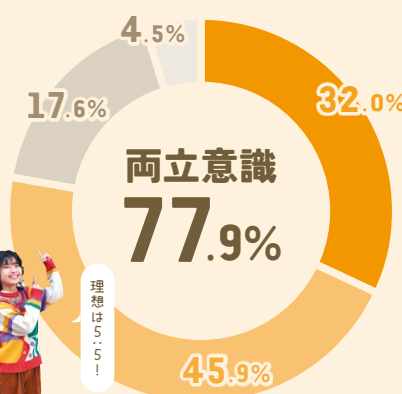


〔若年層男性〕



〔若年層女性〕

若年層の77.9%が仕事とプライベートの両立を意識。



〔若年層総合〕

理想は5:5！

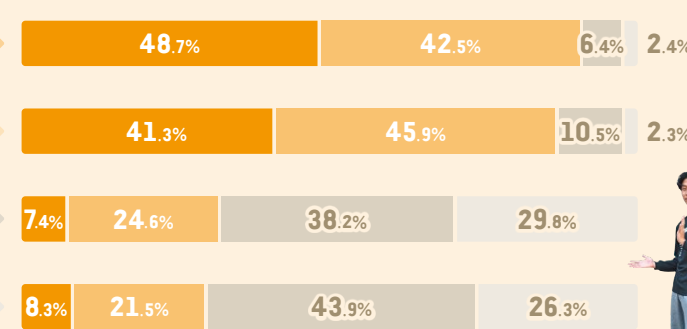
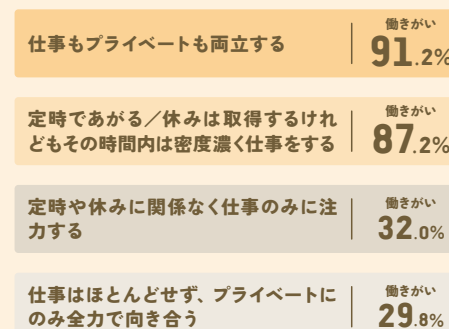
男女に大きな差はなく仕事とプライベートを両立したいという意識が強い。

若年層が働きがいを感じる働き方は仕事とプライベートの両立・時間内で密度濃く働く。

QUESTION

あなたは、以下の「社会に出た後の働き方」についてどのように感じますか？

■働きがいを感じる ■どちらかという働きがいを感じる ■どちらかという働きがいを感ない ■働きがいを感ない



僕も両立は
かなり意識します

若者VOICE

結婚までは好きな仕事を、自身の成長のためにも頑張りたい

仕事とプライベートの割合は、その時々でフレキシブルに調整したいので、就職先の忙しい時と忙しくない時の差を知りたいです。(Iさん・愛知大学生・女性)

独身だったら、プライベートがほとんどなくてもいい。それだけ成長したいです。結婚後は、徐々にプライベートに比重をおきたい。(Rさん・関東大学生・男性)

学校の先生になりたいのですが、その原体験となっている憧れの先生も、産休や育休を取って仕事と育児を両立していました。(Nさん・大阪大学生・女性)

有休も含め、「自分の希望する日」に休みを取れるのかどうか気になります。子どもの運動会の日に休めないとかだと嫌だなと。(Oさん・関東大学生・女性)

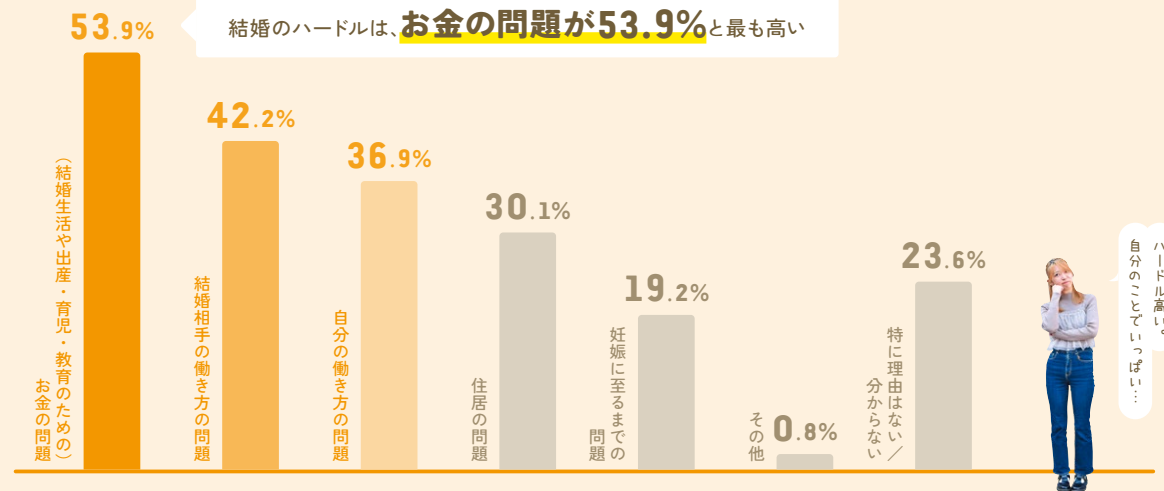
まとめ

男女ともに仕事とプライベートの両立を望む意見多数。比重はフレキシブルに選びたい。

結婚へのハードルってある？

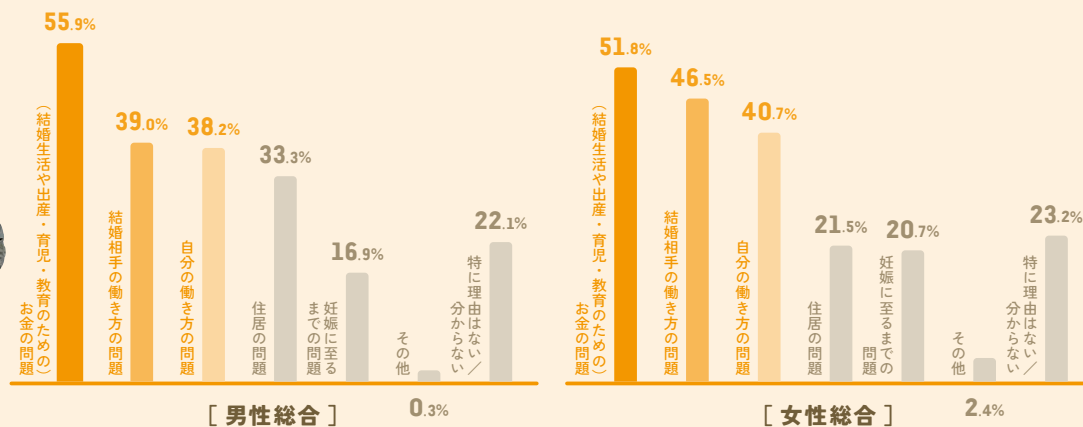
QUESTION

あなたは、いずれ結婚をしたら
どのようなハードルがあると思いますか？



[若年層総合]

キャリアと両立にも不安を感じます



男性、女性ともに結婚のハードルは、お金の問題がもっとも多く、次いで、**結婚相手の働き方の問題**の順になっている。

若者VOICE

結婚をしたい気持ちはあるが、現実もしっかりみている若者たち



20代は仕事に夢中になることを期待するけど、仕事だけの人生というのは、ちょっと寂しいと感じるので30歳くらいで結婚したい。
(Rさん・関東大学生・男性)



結婚って正解があるものではないと思う。子どもがいる人生って素敵だと思ってくれるパートナーと歩んでいきたい。
(Oさん・関東大学生・女性)



結婚ができたら幸せだろうなと思う反面、子育てまで考えると現状は女性の負担がまだまだ大きいと思う。両立できる制度の整備を！
(Rさん・関東大学生・男性)

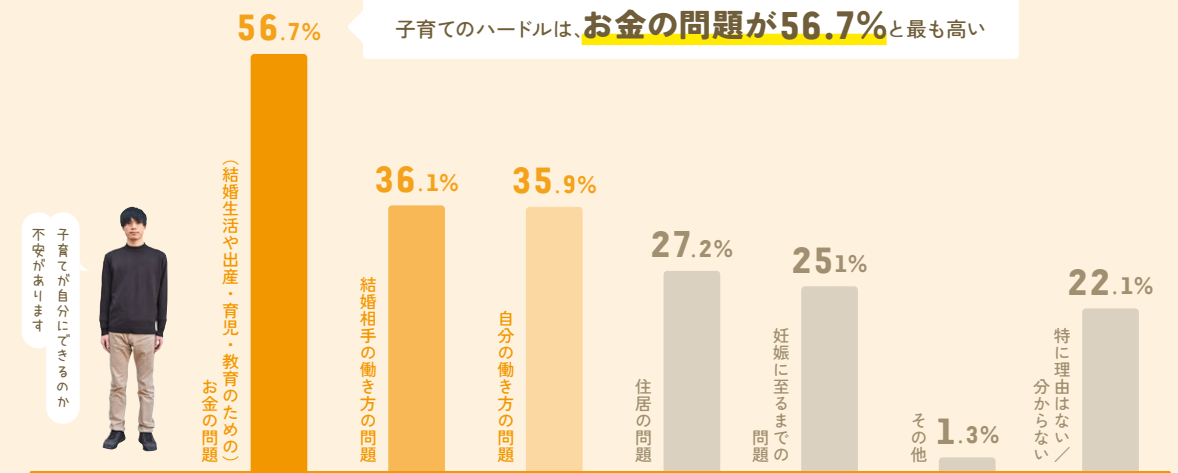
まとめ

結婚へのハードルはお金と働き方。家事・育児に関する女性の負担感が大きいことへの不安もあり。

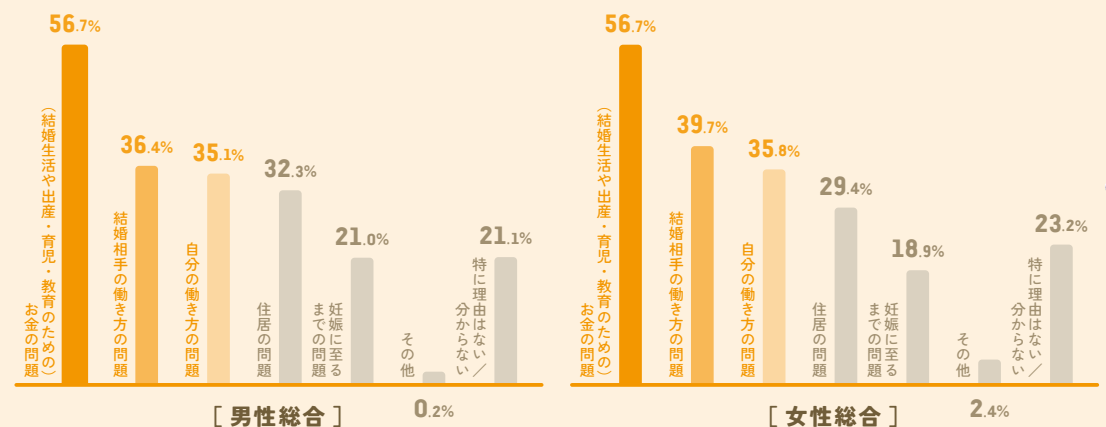
子育てへのハードルってある？

QUESTION

あなたは、いずれ子どもを授かるとしたら
どのようなハードルがあると思いますか？



[若年層総合]



男性、女性ともに子育てのハードルは、お金の問題がもっとも高い。次いで**結婚相手の働き方、自分の働き方**の順になっている。

子どもが熱を出した時に休みが取れるといいな



若者VOICE

ネガティブなニュースを聞くとより一層不安になっていく



ニュースってマイナスな情報が多いから不安になる。もっと子育てに対するポジティブな情報がほしい。
(Oさん・関東大学生・女性)



保育園などを含めた社会制度や子育て支援など、子育て世帯への負担が軽減できれば若者の不安も軽減できると思います。
(Iさん・愛知大学生・女性)



子育てには学費などのお金がかかるのとよく聞けれど、改めて不自由なく大学に通わせてくれている自分の親はすごいと思います。
(Rさん・関東大学生・男性)



子どもの行事や予定での休みに対して会社が寛容であってほしい。育休も、もっと取りやすい柔軟さや理解があると嬉しい。
(Yさん・関東大学生・女性)

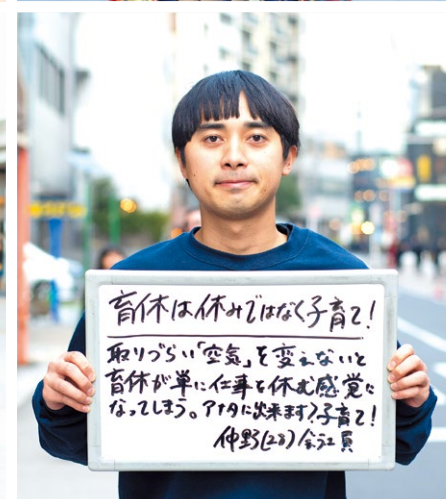
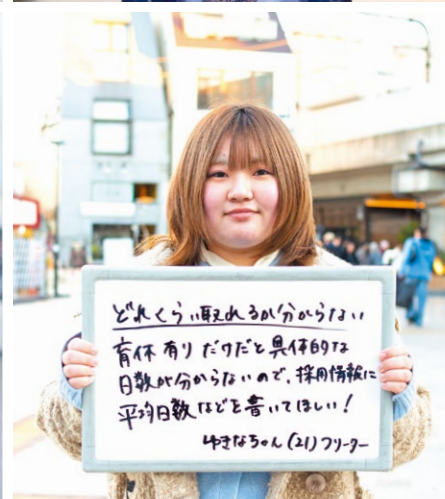
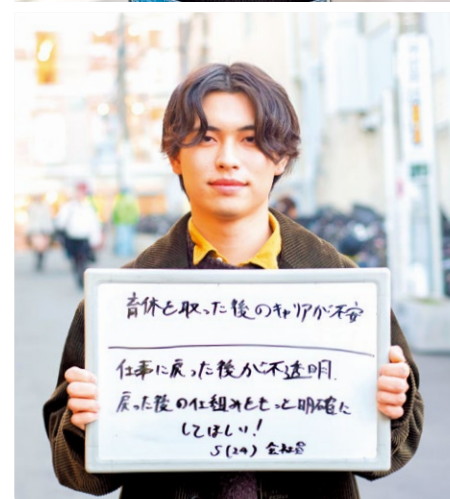
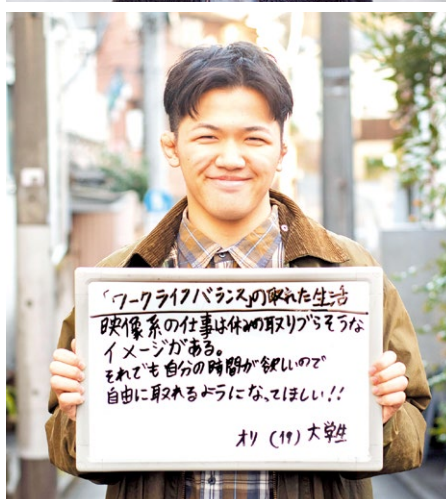
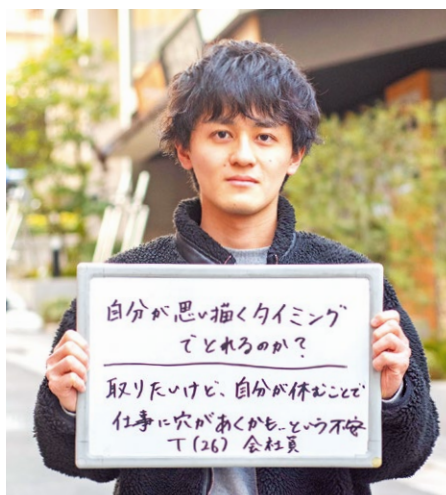
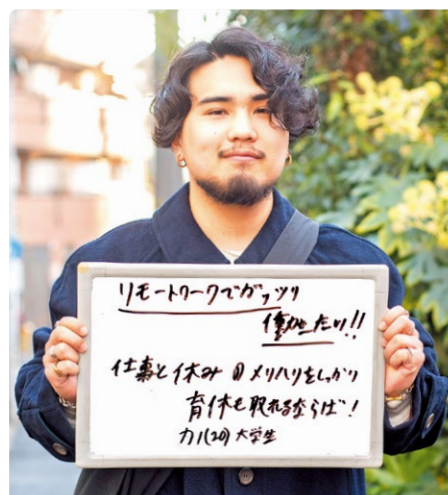
まとめ

結婚と同様、ハードルはお金と働き方。子育てに対するネガティブな情報に不安を感じている。

あなたが望む「育休」や「働き方」は 何ですか？

街中の10代から
20代に聞いた。

育休や働き方
についての思い



東京グラフィティ編集長 鈴木 俊二

一番の壁は、若者や男性の意識じゃなくて、社会全体の「空気感」

今回の若者たちの意見を聞いてみると、男女問わず8割近くが「育休を取得したい」と思っている。一方、男性の育児休業取得率は3割程度。以前に比べたら少しづつ増えていると思いますが、まだまだ足りませんよね。今回の回答者の多くは大学生ということを見ると、この数字のギャップは、特に男性は会社に入り、仕事をしていくにつれ育休が取得しにくいという「空気感」を感じてしまうからなのかもしれないですね。とはいえ、大企業ならともかく、中小企

業の経営者や会社視点で見たら、稼ぎ頭の若者が1年間休みを取ることに痛みを感じる、というのが本音だと思います。社会全体で子育てを大事にしていくということは会社の経営陣も重々理解していても、10~20人規模の会社の中から1人抜けてしまったら...という不安はありますよね。それは取得する側もそう。育休を取る際に少なからず「すいません」って気持ちになってしまう。その「空気感」こそが一番の壁なのではないでしょうか？

難しいとは思いますが、会社側も取得者も不安が軽減されるような支援体制が整って行けば、すでに若者たちが持っている「社会全体で子どもを育てるという空気感」が会社側にも生まれ、男性の育休取得が当たり前、という風土ができるんじゃないかと思っています。

「どうかなる」と思える安心感を

また、結婚や子育てのハードルの理由にお金を挙げる意見も多いですが、ベビーブームの起きた1940年後半は今より裕福だったのでしょうか？ それよりも、「結婚も子育ても、どうかなる」という社会

全体の空気感が以前に比べて少ないのではないのでしょうか。

近年は、核家族が増え、親や親戚など周囲に頼れる人がおらず、子育てにストレスやプレッシャーを感じる人も多くなっている。そんな孤立する子育て世帯の様子やネガティブなニュースを見て若者は不安になる。誰かに助けてもらうことが当たり前だという空気感がもっと広がれば、もっとハードルは下がるし、きっと若者も「子育て、どうかなるでしょ」と思えるんじゃないかな。

企業や会社、地域への支援体制を整えていくことで、社会全体で子どもを育てることが当たり前だという空気感が、より一層広がると思います。

information

イクメンプロジェクト公式サイトのご案内

公式サイトでは、育児と仕事の両立を目指す男性や、イクメンを支援する企業・自治体向けに、育児休業の取得促進に関する最新情報や、企業の好事例、育児に役立つコンテンツなどを掲載しています。また、社内で活用できる研修資料やこれから子どもが生まれる家庭向けに両親学級セミナーの提供もしています。ぜひ、公式サイトをご覧ください、育児に関する知識やサポート情報を活用してください！

\\ 詳細はイクメンプロジェクトで検索 /

イクメンプロジェクト 検索

